

編み地例



ブロックアフガンクロッシェとは

かぎ針を使って「小さなブロック(四角形)」を交互に重ねながら編むアフガン編みの技法の1つです。フラワーアフガンクロッシェから派生した技法で、ブロックが重なり合ったような立体感があり、少し厚みのある丈夫な編み地が特徴です。

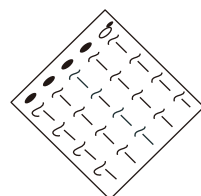
針軸が一定の太さで長めのかぎ針「アミュレ」なら、ブロックアフガンクロッシェを思い切り楽しめます。ここでは、1段めを“底”にして袋を編む編み方を紹介します。

ブロックアフガンクロッシェは、

①アフガン編みの表編みと同じように前の段のたて目を拾う(往き)と、②戻りで構成されています。作り目の時に、くさりの裏山を拾ってそのまま「戻り」を編むことでブロックの形になります。

【基本の編み方】 編み方例：5目4段のブロック(5模様)

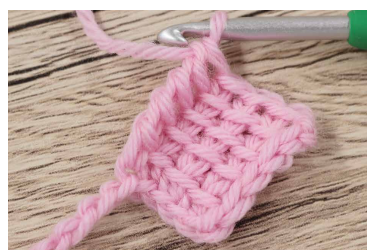
- ①A色(ピンク)でくさり編みを編みます。目数は、編みたい模様数×10目+1目で計算します。5模様(5目4段)の場合は、5(模様)×10目+1目=51目になります。
- ②A色でブロック模様を5個編みます。1つのブロック模様は「5目4段」です。※右の図参照編めたら糸を切ります。



針にかかっている目が1目めになるので、隣から4目、くさりの裏山を拾います。6目めの裏山は飛ばして、



7目めの裏山を拾ったら、「戻り」を編みます。



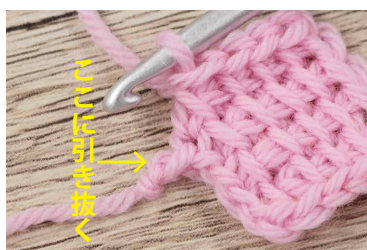
端まで戻り、同じように合計4段編みます。
※2段めの「戻り」からは、隣の裏山を拾います。



引き抜き止めをする時は、くさり編みを1目編んでから始めます。こうすることで、次の段を編む時に編み始めの場所に針を入れやすくなります。



最後は11目めの裏山に引き抜いて、1つめの模様の完成です。これをくり返します。



最後の模様は、1目残った裏山(51目め)に引き抜いて糸を切ります。



次の模様の1目め(=今編んでいる模様の最後の引き抜き)を編む時、前の段を編んだ時に引き抜き止めをする前に追加したくさり編みに引き抜きます。
※手前の小さな目は飛ばします

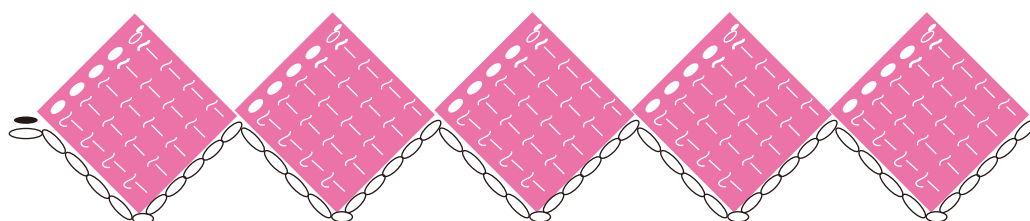


★1段めに編みたい模様の数が違う場合

3模様…3×10目+1目=31目

4模様…4×10目+1目=41目 など

【作り目の拾い方】



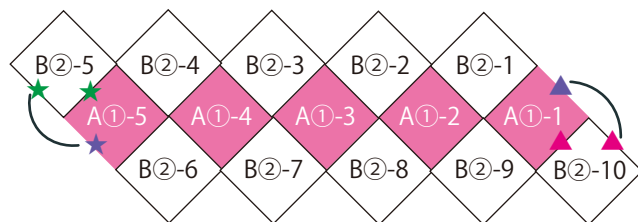
★端の1模様(2段めの5と10)の編み方

2段めからは、1段10模様を輪編みで編みます。

2段めからの10模様は、1段めの周りに編むので、下図のような順番で編みます。

編み終わったら、1段ごとに糸を切り後で糸始末します。

角のところ(②-5と②-10)の編み方は、少し特殊なので編み方の説明をよく見て編んでください。難しそうに見えますが、編んでいけば自然に角ができます。



1段めの端まで来ました。



★と★のところを使って編みます。



通常は、下の段の2辺の中にブロック模様が収まるように編みますが、



各段の端(1と10)は、こういうイメージで編みます。



5目拾ったところ。



隣の目を拾って「戻り」を編みます。



続けると、自然に角ができて来ます。



B②-5が編めました。しっかり角になっています。



一周すると、1段めは半分に折られて袋状になります。



2段編めました。ここからは、ぐるぐる編んでいきます。

4～10段めまでは、交互に糸を替えながら1段につき10模様ずつ編みます。